

## ●法人概要

- ・名称 一般社団法人  
ピースボート災害支援センター
- ・設立 2011年4月19日
- ・理事 7名
- ・監事 1名
- ・職員 18名
- ・事業費 2020年度 1億7,256万円  
2019年度 1億5,592万円  
2018年度 1億2,967万円



© Shiho Yuruki



# VISION

人こそが  
人を支援できる  
ということ

ピースポート災害支援センターは、被災地での災害支援活動や災害に強い社会作りに取り組み非営利団体です。誰しもが、自然災害に遭遇する可能性があります。国や地域を越えて、すべての人々が互いに助け合える社会を創ることが、困難に立ち向かう力になると信じています。

# MISSION

「お互いさま」を  
共に歩む

いつ、どこで起こるか分からない災害は、時に私たちが被災者にし、時に私たちが支援者にもします。自分を守り、大切な人も守る。そして少し遠くの「あの人」を支えます。私たちは、被災者や被災地域の回復のために、その文化や営みに寄り添い、支援者として自発的に関わる多様な人々の想いを具体的に「役に立つカタチ」にします。



# IMPACT

33ヶ国(海外)  
62地域(国内)

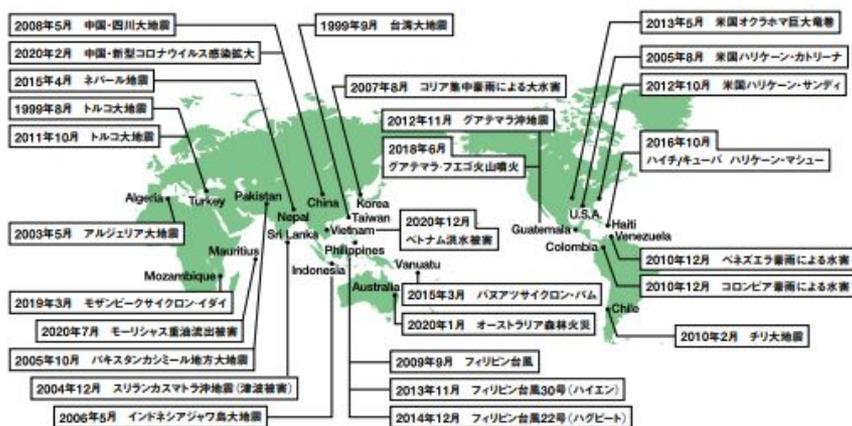
これまでに支援した延べ被災地域  
1995年以降の国際NGOピースポートの災害支援を含む

108,237人  
共に活動したボランティアの延べ人数

8,391人  
災害ボランティアトレーニング修了者

ピースポートの主な災害支援 ※2021年3月現在

## 海外



ピースポートの主な災害支援 ※2021年3月現在

## 国内



# その地域の人たちには、回復力がある

困難な状況にあったとしても、適切なサポートがあれば、未来に向かう一歩を踏み出せます。  
 ひとつとして、同じ災害はありません。  
 そして、ひとつとして同じ支援のカタチもありません。  
 その時、その場所、その人たちに必要な支援を。



## PREPARATION

- 災害ボランティア事前登録
- 災害ボランティアトレーニング
- 災害支援ネットワーク構築



## ASSESSMENT



## COORDINATION

- 災害ボランティアおよび専門スタッフの派遣
- 企業・団体の強みを活かした協働・連携
- 支援の基盤を支える寄付者と後方支援



## SOLUTION

- 物資支援
- 食事支援(炊き出し)
- 避難所運営サポート
- 在宅・車中・指定外避難所等避難生活支援
- 災害ボランティアセンター運営サポート
- 家屋清掃
- 家屋の応急対応  
(床・壁への対応、屋根への防水シート張り等)
- 家屋保全講習
- 写真洗浄
- 支援団体間調整・連携サポート
- コミュニティ形成サポート
- 仮設住宅支援
- 地域産業支援
- 行政支援

# 2021年の取り組み 災害支援

災害名	活動地域	派遣人数(のべ)	活動内容
2018年 7月豪雨	岡山／倉敷	のべ <u>6,424人</u> 3名が遠隔支援	・防災研修・わが家の災害対応ワークショップ開催 ・コミュニティ形成支援・公民館への備品提供
2019年 台風15・19号	千葉／鴨川、館山、鋸南、木更津、君津、南房総、富津	のべ <u>2210人</u> 3名が現地在住 2名が遠隔支援	・屋根への防水シート張り <u>354世帯</u> ・担い手育成(座学・現場実習) <u>40回 245名</u> ・中間支援組織の運営サポート <u>11社協、10自治体、20NPOと計600回の情報共有と調整業務</u> ・シート張りの事例集作成 <u>1冊</u>
2020年 7月豪雨	熊本／人吉・球磨・八代、芦北・津奈木・山江 大分／日田市、由布市、九重町	のべ <u>1262人</u> 1名が現地在住 1名が遠隔支援	・災害ボランティアセンター運営支援 ニーズ対応 <u>62件</u> ・仮設住宅集会所への支援 <u>22箇所／13品目／942点</u> ・被災公民館への備品提供(熊本・大分) <u>17地区 1169点</u> ・震つなサロンサポート 対象 <u>51地域 32回</u> 贈り物支援 <u>18団体約3800人分</u> ／ 公民館の仮復旧(熊本県) <u>9地区</u>
2021年2月 福島県沖地震	宮城／山元	のべ <u>74名</u>	・ブルーシート張りの実施 <u>20世帯</u> ・地元団体へのノウハウ共有及び資機材提供 <u>1団体</u>
2021年 7月豪雨	静岡／熱海	のべ <u>74名</u>	・JVOAD派遣、避難所の意向調査 <u>2箇所 対象:323名</u> ※運営相談員 <u>67名</u> DWAT <u>11名</u> のべ <u>210名</u> で実施 ・家屋保全に関わる技術系支援 対象 <u>2件</u>
2021年 8月豪雨	佐賀／大町	のべ <u>435名</u>	・緊急/コミュニティ物資支援 <u>3箇所 156品目 678点</u> ・在宅・支援調整 炊き出し <u>6箇所／132回／8296食／11団体</u> 問合せ合計 <u>89件の内、マッチング 62件</u> ・資機材貸し出し <u>3箇所、8団体と協力し、53名を対象に 164点</u> ・家屋保全 <u>2件</u> ・避難所の環境調査・改善 <u>6箇所</u>
2020年ベトナム中部 洪水	ダナン (Da Nang)	ダナン青年同盟を通じた支援	・食料パッケージの配布- <u>200世帯</u> 食料品/調味料/支援金などを配布
2020年モーリシャス 船舶重油流出事故	マエブール (Mahebourg)	MWFおよびEPCOを通じた支援	・重油除去、環境回復 ・コミュニティへの代替生計手段の提供 農業や養蜂、養鶏など

※2020年以前に発災した災害は過去実績を含む

# 2021年の取り組み 防災・減災事業

研修・講演メニュー	内容	回数	参加者数
災害ボランティア入門	災害に関する一般知識、被災地で注意すべきケガや病気、ボランティアの活動の種類、ボランティア参加の心構えや持ち物などを紹介	10	248
リーダートレーニング	安全管理や被災者への配慮など、支援の現場のボランティアリーダーに求められる知識や判断力を身につける	1	10
わが家の 災害対応ワークショップ	家族のライフスタイルや自宅の状況、地域の特性に合わせて、被災した状況をイメージしながら、具体的に「わが家」で役に立つ災害対応や備えを考える	3	69
支援を活かす 地域力ワークショップ	東日本大震災を経験した宮城県石巻市の教訓を生かして、「自分の住む街を守る力」を考える	1	44
避難所の運営研修	中長期での避難所の運営と環境改善について考え、避難者の命と生活、尊厳を守る	11	804
災害VCマッチング シミュレーションゲーム	被災者のニーズを把握し、ボランティアを適材適所につなぐ地元主体の「協働」を体験型で学ぶ	7	228
災害VC設置訓練・運営研修	運営マニュアルに沿った訓練や関係者による意見交換などから、現場と運営のイメージを共有する	16	419
講演	被災地支援における現場責任者やプロジェクトリーダーの経験を持った講師陣が、様々なテーマで講演を実施。	23	1,378
その他	災害ボランティアセンター運営のコンサルティングを実施	3	0
<b>合計</b>		<b>75</b>	<b>3,200</b>

# 行政等との連携でうまくいった事例

西暦	災害	市町村	内容(以下の活動は様々な支援団体と協力して実施している)	活動写真
2011	東日本大震災	宮城県石巻市	まちなかスマイルプロジェクトとして、行政、NPOなどが協力し、 <u>商店街エリアの道路や歩道に堆積した災害ゴミを小型重機やダンプを使用し集中的に撤去した。</u> 炊き出しでは、3社会議(行政、自衛隊、NPO)を実施。 <u>自衛隊、NPOで避難所を分担し約30,000食を(2011年4月下旬時点)をカバーした。</u>	
2016	熊本地震	熊本県熊本市益城町西原村等	JVOADへ職員3名を派遣し、 <u>県、市町村、県社協、市町村社協などを含めた行政会議を6市町村で201回開催。</u> 内閣府や地方自治体と協力し避難所の環境調査や支援調整を7団体、118箇所実施。70品目以上の物資調整、16市町村、86箇所の仮設住宅への不具合対応や備品支援の調整を実施した。また行政より <u>避難所運営の依頼を受け避難所や車中泊避難場所の運営に職員およびボランティアをのべ923名を派遣した。</u> ▼報告書 <a href="https://pbv.or.jp/wpPBV/wp-content/uploads/2017/02/2016_kumamoto.pdf">https://pbv.or.jp/wpPBV/wp-content/uploads/2017/02/2016_kumamoto.pdf</a>	
2018	7月豪雨	岡山県倉敷市	災害ボランティアセンターにリエゾンとして市職員が派遣されており、 <u>災害ゴミの調整、資機材の調達、サテライト等の拠点整備などの調整が容易であった。</u> また2箇所設置された避難所運営への要請を受けてスタッフを派遣した。 ▼報告書 <a href="https://pbv.or.jp/wpPBV/wp-content/uploads/2019/04/2018_nishinihon.pdf">https://pbv.or.jp/wpPBV/wp-content/uploads/2019/04/2018_nishinihon.pdf</a>	
2019	台風15号	千葉県鋸南町	強風によって飛散した屋根瓦への応急処置としてブルーシート張りを実施した。その際、 <u>要配慮者のニーズ把握が困難だった為、行政から対象となる生活保護世帯の名簿を共有頂き支援を実施した。</u> ▼被災家屋への対応事例集 <a href="https://jvoad.jp/wp-content/uploads/2021/03/fd58afceb7318f27d53ea27775cfc173.pdf">https://jvoad.jp/wp-content/uploads/2021/03/fd58afceb7318f27d53ea27775cfc173.pdf</a>	
2019	台風19号	福島県いわき市	水害後の住宅のカビ、悪臭、腐敗防止を目的として、住民向けに壁・床材剥がし講習会を地域の公民館を使用して実施した。 <u>開催に辺り市職員や社協職員から区長を紹介頂き実施した。</u> 市の担当課と調整し、NPOが住宅から剥がした壁・床材などは産業廃棄物ではなく <u>災害ゴミとして取り扱った。</u>	
2020	7月豪雨	熊本県人吉市球磨村	2020年度より災害救助法の国庫負担の対象となった災害ボランティアセンターの運営に係る費用を受けて、 <u>市から業務委託を受けNPOとして初めて運用を行った。</u> また村からは <u>避難所運営の業務委託を受けて実施している。</u>	
2021	8月豪雨	佐賀県大町町	行政、社協、中間支援組織、NPOが協力して <u>支援体制スキームを作成し、避難所のほか、在宅避難者への支援として炊き出し配膳、家屋清掃資機材の貸し出し、住民向け講習会、を地域の公民館を活用して実施した。</u>	

# 行政等との連携でうまくいかなかった事例

発災から2年以上経過しているにも関わらず、新規に支援の依頼があったケース

発災後2年3ヶ月 80代男性、独居

- ・罹災証明書上の罹災状況：一部損壊
- ・制度などの利用：なし
- ・工事など：未実施
- ・依頼内容：被災後、ボランティアなどの支援を知らなかった。行政に相談しても、支援は全て打ち切られていると言われ諦めていた。金銭的な理由から修繕工事を行えないため、雨が漏っている状況をなんとかしてもらいたい。

・PBVによる所感：住人に状況をヒアリングしたところ、第一声目で「台風15号の時に酷い音がして、天井が剥がれ雨が漏れ出した」という言葉が出た。それにも関わらず、担当していたケアマネジャーは、再三にわたる被災者からの訴えかけに対して「対応できる人間は居ない」の一点張りであった。このように、被災者にとっては行政の直接的な窓口となるケアマネジャーが制度や支援者の情報などを把握しておらず、個人の主観で対応してしまうことにより、被災者が受けられるはずの権利を受けられない状況が発生している。また、本件については、たまたま市保健福祉課の担当者と住人が口論になった結果、保健福祉課から社会福祉協議会に声がかかり、三者会議を行うなどして継続的に協働の必要性を訴えかけていたPBVに相談が回ってきた。市では、激甚災害に指定された災害による被災地にも関わらず、平時の対応を行う行政と、支援を必要とする被災者の間にあるギャップが、生活再建を遅らせてしまうケースが多々発生している。

・PBVによる対応内容：住民の方が健康を害して入院したため、対応を一時保留。



天井が落ちてきている状態で2年以上生活を続ける住人。「台風15号で落ちた」と話す住人に対して、支援は行われないまま時間が過ぎた。



致命的では無いものの、屋根の損傷による雨水の浸水により全体的に天井がたわんでいる状態。



写真ではわかりにくいですが、随所に見られる天井のたわみ。また、廊下には雨漏りした水滴を受けるためのタライが数カ所置かれたままの状態であった。



天井の隙間からは、寒風も吹き込む。

# 行政等との連携でうまくいかなかった事例

発災から2年以上経過しているにも関わらず、新規に支援の依頼があったケース

発災後2年5ヶ月 80代女性、独居

- ・罹災証明書上の罹災状況：申請なし
- ・制度などの利用：なし
- ・工事など：未実施
- ・依頼内容：罹災証明書の発行は、任意保険に入っている人のみが対象だと思っていて申請しなかった。発災直後、知り合いに15万円を支払いブルーシートを張ってもらったが、すぐに剥がれ、そのまま。土のうも落ちてきそうで怖い。自己負担可能な限りで工事（軒先の天井のみ補修）を行ったが、屋根の修繕工事は行えておらず根本的な解決に至っていない。長い間我慢してきたが、思いきって市役所に相談。しかし、何もできることは無いと門前払いだったため、社会福祉協議会に相談した。

- ・PBVによる所感：本件についても、ケアマネージャーが制度を把握していなかったことにより、被災者に必要な支援が行き渡らなかったケース。担当するケアマネージャーは当該の住民に対して「何でもかんでも頼む人」という印象を持っているようで、そのような主観が被災者への支援を滞らせてしまった。また、被災者は市が斡旋する地元工務店に修繕工事を依頼した経緯があり、その際に工務店の人から「うちは市より力を持っている。断るなら、見積もり額の7割を支払え」などと脅されたという。本来、行政が斡旋した安心できるはずの工務店の対応により、被災者が恐怖を感じ苦しめられたケース。行政が斡旋する業者の選定基準などについて、精査する必要性を感じる。

- ・PBVによる対応内容：2022年1月、応急修繕予定



軒先の天井を修繕したが、そもそもの屋根は修繕されておらず、劣化したシートが垂れ下がらる。



劣化した土のうが落下することを怖がり、玄関から門にかけては使用せず裏口から出入りする住人。



天井が大きく落ちていることはないが、随所にとわみが見られる。



雨が降る日にはポタポタと雨漏りしている音が家中至る所から聞こえ、精神的にも追い込まれるという。

# 行政等との連携でうまくいかなかった事例

発災から2年以上経過しているにも関わらず、新規に支援の依頼があったケース

- ・発災後2年3ヶ月 70代男性、独居、半身麻痺、知的障害、言語障害あり
- ・罹災証明書上の罹災状況：準半壊
- ・制度などの利用：応急修理制度(300,000円以内)
- ・工事など：県が斡旋する市内の地元業者による修繕工事

・**依頼内容**：応急修理制度を利用して修繕工事を行なったものの、損壊箇所全てを修繕することができず、雨漏りが続く状態で2年以上生活している。これ以上、家屋の損壊が進まないように対処してほしい。

・**PBVIによる所感**：災害救助法にもとづく応急修理制度は利用されているものの、家屋修繕の費用すべてを賄うことができず、屋根が無い部分のブルーシートは経年劣化し、被災者は空が見えている状態で生活していた。行政が斡旋する地元工務店による工事はずさんで、傷んだ下地の対処も行わずに波板で覆ったのみであった。また、施工時に出た廃材などの廃棄などが行われておらず、風呂場の浴槽に詰め込んだままの状態であった。この工事完了後、行政による施工内容の確認などは行われておらず、事務的に対応完了とされていた。ケアマネージャーによる報告でこの悲惨な状況が発覚したが、発災から2年以上が経過しており、その間、被災者は屋根が無い家ででの生活を送っていた。本件以外にも、応急修理制度を利用した工事後に被災者からPBVへ依頼されるケースも少なくないため、工事後、行政による早い段階での状況確認などが求められる。

・**PBVIによる対応内容**：劣化したブルーシートの除去、屋根下地づくり、波板(ガルバリウム鋼板)による応急修繕、室内清掃、災害ゴミ廃棄

※記載した3つのケースは、みなし仮設が設置されたにも関わらず、国庫補助にて運用できる「被災者見守り・相談支援事業」が実施されなかった。その為、行政が被災者の生活実態を把握出来ず、連携不足や支援モレが発生した



地元工務店の対応後も屋根上に残された劣化シートと土のう袋。劣化したシートの粉が近隣に飛散していた。



施工した工務店が危険な状態のまま天井裏に放置した災害ゴミ。このような状況が室内各所に見られた。



地元工務店による修繕工事が行われたとして、行政の対応は完了とされている。しかし、劣化したシートは破れ空が見える状態のまま



施工した工務店が浴槽の中に放置したままの災害ゴミ。虫がわき、とても不衛生な状態だった。

# 連携を進めるうえで国や地方自治体等に期待すること

災害が発生する前から官と民が連携し、防災、減災の取り組みを協働で実施することで、災害の被害を軽減し、早急かつきめ細かい支援と、より良い復興が実現できる。これは行政から住民へ対する一方的な支援を目的とするのではなく、住民やボランティア、企業も含めた民間支援組織同士の相互扶助が起こり、地元住民が主体となった復旧・復興への取り組みが実施され、持続可能な社会に発展する。

## ▼解決の一例

・官民連携を軸とした復旧・復興コーディネーターを配置頂きたい。

災害支援は専門性が求められるため、そのノウハウを蓄積、共有できるよう、市区町村ごとに1~2名程度、コーディネートのスペシャリストを配置して頂きたい。2021年8月豪雨の被災地となった佐賀県大町町では、2019年の被災経験から地域おこし協力隊を災害支援専門に配置した。災害時は地域内外の社会資源を最大限に活用する必要がある為、防災減災を軸とした訓練や研修会などを実施していた。2021年8月の豪雨災害では、役場と住民の橋渡しだけでなく、県内外から駆けつける支援団体の調整などの役割も担った。

西日本新聞センター  
092(711)5331  
〒810-0872 福岡市中央区天神1丁目4番1号  
電話092(711)5555代  
0120-44-0120

# 西日本新聞

2021年(令和3年) 12月16日(木曜日)

発行所 西日本新聞社 〒810-8721 福岡市中央区天神1丁目4番1号 電話092(711)5555代

2021年(令和3年)  
12月16日(木曜日)



佐賀県大町町で災害支援専門の地域おこし協力隊員として活動する公門義輝さん。11月、町町役場で開催された被災地で、町役場の対応を住民に説明する公門さん。(右奥) =9月

## 協力隊 災害支援専門に

2019年8月、今年8月の豪雨災害が続いた佐賀県大町町で、全国でも珍しい災害支援専門の地域おこし協力隊員として公門義輝さん(右奥)が活躍している。国内の被災地を巡り、その経験や人脈を活かし、町役場と住民とを結びつける役割を果たした。公門さんは1年以上にわたる被災地の視察や、被災地への支援活動に加え、地元で活動する被災者やボランティアの調整なども担った。

## 役場と住民の橋渡し奮闘

公門義輝さんが支援に入った主な被災自治体

2016年	熊本県
17年	九州北部豪雨 福岡県東海市 台風21号 三重県玉城町
18年	大阪府北部地震 大阪府茨木市、高槻市 西日本豪雨 岡山県倉敷市
19年	佐賀県などの豪雨 佐賀県武雄市、大町町 台風19号 福岡県みやき市

大町町の水害 2019年8月と今年8月に九州北部を襲った豪雨で、佐賀県大町町や隣の武雄市はいずれも甚大な被害が出た。支流などが本流の河川に流れ込み、あふれた内水沿線で、被災した地域はほぼ重なる。大町町の今年の浸水戸数は約3955戸、19年は約4202戸。町によると被災家庭は12月現在で今年が4340戸、19年は3022戸だった。19年は鉄工所から油が広範囲に流出する被害も重なった。

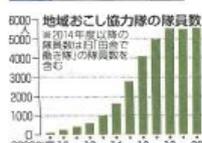


## 再被災にも「向き合い続ける」



被災者宅を訪れ、支援活動を行う地域おこし協力隊の隊員(右)と被災者(左)。(大町町提供)

「再被災にも向き合い続ける」大町町では、2019年の豪雨災害で被災した地域に、今年8月の豪雨災害で再び被災した地域がある。被災者宅を訪れ、支援活動を行う地域おこし協力隊の隊員(右)と被災者(左)。(大町町提供)



地域おこし協力隊の隊員数  
2009年度 10 12 14 16 18 20  
2014年度以降の隊員数は約100名で、2019年度は約400名に増加した。

地域おこし協力隊  
「地域の活性化や防災・減災に貢献する」として、2014年度に創設された。2019年度は約400名に増加した。大町町では、2019年の豪雨災害で被災した地域に、今年8月の豪雨災害で再び被災した地域がある。被災者宅を訪れ、支援活動を行う地域おこし協力隊の隊員(右)と被災者(左)。(大町町提供)

# ▼参考資料1 書籍掲載等



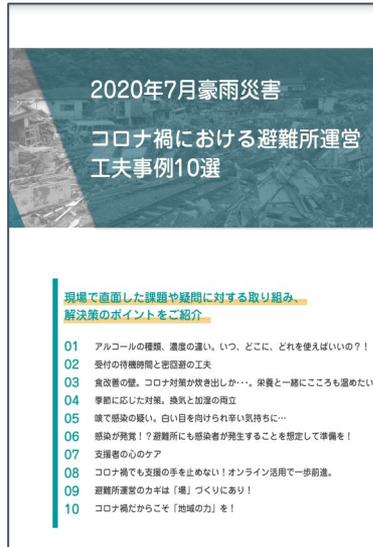
発行:東京法令出版



発行:JVOAD避難生活専門委員会



発行:JVOAD技術系専門委員会



発行:JVOAD避難生活専門委員会

・『災害廃棄物管理ガイドブック』(2021)  
編集:廃棄物資源循環学会 発行:朝倉書店  
[https://www.asakura.co.jp/detail.php?book\\_code=18059](https://www.asakura.co.jp/detail.php?book_code=18059)

・災害廃棄物に関して民間支援が現場で取り組んでいること(2020)  
国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター  
<https://dwasteinfo.nies.go.jp/archive/interview/pbv.html>

・「被災家屋への対応事例～屋根の対処編～」(2021)  
発行:全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)技術系専門委員会  
主管:ピースボート災害支援センターPBV)  
<http://jvoad.jp/wp-content/uploads/2021/03/fd58afceb7318f27d53ea27775cfc173.pdf>

・「新型コロナウイルス避難生活お役立ちサポートブック(第版)」(2020)  
発行:特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)避難所生活改善に関する専門委員会  
<https://jvoad.jp/wp-content/uploads/2021/02/db1b9a713e3816a3037c96d4d1539390.pdf>

・「JVOAD 災害支援ノウハウ可視化プロジェクト 住宅再建バックアップ研修資料 パナソニックプロボノチーム」(2019)  
作成:特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)  
<https://onl.la/Ux324Wu>

・「被災地につなげる災害ボランティア活動ガイドブック」(2019)  
合田茂広・上島安裕著/災害ボランティア活動ブックレット編集委員会編/出版:全国社会福祉協議会  
<https://onl.la/Gtefcnt>

・新版ブックレット「災害ボランティア入門」(2019)  
ピースボート災害支援センター編 合同出版  
<https://safetybank.stores.jp/items/58be59f0748e5b8a89006edd>

・「災害ボランティアチームリーダーの手引き 家屋清掃水害編」(2017)  
発行:ピースボート災害ボランティアセンターPBV)  
[https://pbv.or.jp/download/other/manual\\_A5\\_LQ.pdf](https://pbv.or.jp/download/other/manual_A5_LQ.pdf)

# ▼参考資料2 CSO連携体制図

11月版

## 令和3年8月大雨災害 大町町 被災者支援対応 CSO連携体制

2021.10.17更新

被災された住民のみなさま

佐賀県

包括協定	物資協定
SPF 中間支援組織 (窓口担当：●●)	Civic Force (窓口担当：後藤)
日レス (窓口担当：●●)	グリーンコープ (窓口担当：荒川)
おもやい (窓口担当：鈴木隆)	

※平時の担当者を記載

大町町役場

大町町社会福祉協議会  
(災害ボランティアセンター)

協働連携

技術案件対応

運営主体 社協 災害VC 担:吉村、吉田	運営サポート 兼対応 OJ 担:手代、パワロ	アドバイザー 兼対応 風組 担:W小林
対応 め組 担:今井	対応 RA 担:竹田	対応 災害VC一般ボラ 技術チーム

カビ、水分量の確認、床剥ぎ、床下、壁、消毒対応など

SCN 協力連携

CSO連携室  
窓口：大町町地域おこし協力隊  
担：公門

運営サポート  
SPF  
担：●●

CSO連携会議  
毎週火曜17:00-

- 支援団体名 (略称)  
※順不同/青文字(外部支援団体)
- 佐賀県地域おこし協力隊ネットワーク (SCN)
  - 佐賀災害支援プラットフォーム (SPF)
  - 日本レスキュー協会 (日レス)
  - おもやい
  - Civic Force (CF)
  - グリーンコープ
  - 風組関東 (風組)
  - ピースポート災害支援センター (PBV)
  - OPEN JAPAN (OJ)
  - め組JAPAN (め組)
  - レスキューアシスト (RA)
  - 災害NGO結
  - ようこそ小城
  - 大町町各自治会、地元支援者など

被災者全体の状況把握

運営主体 大町町 担:亀川、畦山	運営サポート SPF 担:●●	運営サポート PBV 担:幸崎
------------------------	-----------------------	-----------------------

被災者全体の状況把握  
(手法) 訪問ヒアリング、アンケート、行政、社協、自治会、支援拠点、各支援団体等からの情報共有 など

個別ニーズ対応/地区ニーズ・コミュニティ支援

運営主体 地域おこし協力隊 担:公門	運営サポート 日レス 担:清水	サポート PBV 担:大塚
--------------------------	-----------------------	---------------------

状況把握からあがった個別ニーズへの対応。地区からあがる相談などからのコミュニティ支援を検討  
※シーズ・ニーズ調整のネットワークを活かす

支援交流拠点「Peri.」

運営主体 地域おこし協力隊 担:公門、平井	運営サポート 地元住民メンバー	技術アドバイザー 運営サポート兼対応 おもやい 担:千綿(仮)	風組 担:W小林
-----------------------------	--------------------	--	-------------

物資配布(日用品、飲料品等)、資機材貸出、カビ調査、技術案件対応  
子育て相談、その他相談等

分館備品支援

支援先 各自治会・分館	支援団体 PBV 担:塚場
----------------	---------------------

※担当課：教育委員会  
中島、下湯、恵比須の被災した公民分館への備品提供。コミュニティ支援の再開に繋げる

協力連携 SPf 県域物資拠点 @病院倉庫 (連絡窓口担：●●)

アドバイス  
結  
担:土武

協力連携 SPfネットワーク企業・団体等

運営ボランティア：ようこそ小城？SPF？  
運営体制：毎日？週3？週2？(平日？土日？) 9:00-16:00  
活動内容：搬入、搬出、納品されたものの動作確認・掃除、在庫管理 など